令和４年度　第１回学都松本子ども読書活動推進委員会　議事録

日時：令和４年８月２９日（月）10：00～11：30
場所：松本市中央図書館　第１視聴覚室

【出席者】
豊嶋委員長、上條副委員長、三ツ井委員、奥原委員、谷口委員、舟田委員、越高委員、清水委員、小岩井委員

事務局：小西中央図書館長、大月館長補佐、百瀬主査、永春主事

【次　第】
1　開会
2　新委員あいさつ
改めまして、こんにちは。今年から中央公民館の隣にある城北の公民館長としてお世話になります、小岩井成人と申します。
館長をやってほしいという話があり、それから色々ご要請がありまして皆様の一員として仲間入りさせていただきます。分からないことがたくさんありますので教えていただきながら尽力したいと思います。
お世話になりますがよろしくおねがいします。
3　館長あいさつ
皆さんこんにちは。小西です。よろしくお願いいたします。
本日はご多忙の中、第１回学都松本子ども読書活動推進委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。
相変わらずコロナの状況が高止まりのままで、さまざまな活動は止めないという市の方針でございますので、読み聞かせ養成講座も予定通り開催していただいております。ありがたく思っています。
またおはなし会やイベントについては、地区によってはやむを得ず延期という措置をとっているところもありますけれども、対策をとってできるだけ実施していければと思っております。
図書館の近況を申しあげますと、新聞でもにぎわっていますが、松本市図書館未来プランの案が議会から承認を得られましたので、ホームページにも載せておりますパブリックコメントでいただいた意見を参考にしながら、秋を目途に策定を進めていこうと思っております。
サードブック事業につきまして、今の状況ですが実施計画の一次評価が残念ながら良くありませんでした。指摘として、学級文庫を守りつつ方策を変えなければこのままでは認められないという結果を残念ながらいただいてしまいましたので、少し

手法を変えて実施計画の復活ということにあげさせていただきました。
金曜日に財政部長、総合戦略局長を交えたヒアリングに私挑んでまいりました。たくさん件数がある中で限られた時間でしたけれども、私なりに思いは伝えてきました。手法をここまで見直したということは一定の評価はあったのかなと思いますが、あくまでも市役所全体の事業の中の一つということでどういう評価がでるかは今後分かりませんけれども、１年先延ばししてこれだけ考えてきたということも伝えてまいりましたので、なんとか予算がつけばと願っているところでございます。
本日の議題は報告事項３件と協議事項２件となっております。限られた時間ではありますがどうぞよろしくお願いいたします。

４　委員長あいさつ

皆さんこんにちは。お集まりいただきありがとうございます。
今館長の方からもご挨拶の中でサードブック事業につきまして、現状について少しお話ありました。昨年度の最終の子ども読書活動推進委員会が２回目でしたけれども、３月に皆様方に市へ要望書を提出したい旨お諮りいたしまして、賛同いただけましたので本年６月１７日に教育長の所に私と副委員長２人で出向きまして要望して参りました。それを受けての実計と今回復活の提案となっております。
私は復活提案をしていただく前に一報を受けまして、一度図書館の方と協議の場を持ちましたので、それだけは報告をしておきます。
本日はサードブックも含め、今年度の子ども読書活動推進事業についてご協議いただきたいと思います。どうぞ忌憚のないご意見をちょうだいできればと思っております。どうぞよろしくお願いします。

５　議題

【議事録】

１　「５　議題」について

【報告事項１　松本市読書案内人運用方針の改定について】

事務局：説明

委員長：市内含む松本広域地区だけではなく県外からはなかなか難しいと思いますけれども県内の講師の方をスキルアップ講座にお呼びしたいというため、こういった形に運用方針を改めたいということです。
それでは皆様これについて承認いただけるということでよろしいでしょうか。

（反対意見なし）

承認いただいたということとさせていただきます。

【報告事項２　サードブック事業の現状について】

事務局：説明

委員長：一つ確認をしておきます。皆様方でこの場でご協議いただく段階ではなく、実はこの見直し案で復活の実施計画にあがっているという状況ですので、報告事項ということになっておりますが、まずはご意見の前にご質問等ございましたらいかがでしょうか。

Ｆ委員：クラス数が多い学校は、現在何校あるんですか？

事務局：見直し案にありますけれども、１００人以上は４校あります。なので、クラスが３クラス、４クラスのところです。５０人以上１００人未満のクラスが１２校。５０人未満が１２校です。
当初の予算ですが、資料代として７２クラス分の１セット５万５０００円くらいの７２クラス分ということで考えておりましたけれども、見直し案では１セットの金額は変わらず全て４８セットになります。そのかわり初年度について運搬用のコンテナということで各学級数分のコンテナを購入するというのがそれにプラスされております。２年目、３年目以降につきましては、１年間でどれくらい汚損、破損になるか全く読めない状況にはなるのですけれども、買い替えの分予算もあげていこうかというような段階です。

Ｆ委員：セット数よりクラス数の多い学校というのは分けるのですか？
４クラスある学校はそんなにいっぱいありますか？

事務局：そんなにたくさんはないと思います。鎌田、波田、梓川あたりです。

Ｆ委員：クラス分が本当はあってもいいですよね。わざわざ４クラスあるところを３つに分ける必要があるのかなと思ったのですが。１年生が４クラスあるところは波田と鎌田くらいだと思います。

事務局：来年度の状況は分かりませんので、今年度のクラス数で出しています。

小西館長：補足です。毎年４００万近くだったと思います。それが今回見直しによって初年度が本代２６０万くらいで、買い替えが９０万なので大分予算的は落

ちています。

委員長：もう一つ、前回協議させていただいたときにお聞きしたところですが、当初案が通らなかった理由についてお伺いしたところ、一人１冊最終的にプレゼントする。そこに不公平感が否めない。
大規模校の場合、汚破損があるだろうその中から自分の好みの本をもらえない子が出てくる可能性がある。しかもボロボロになっていることも想定される。一方小規模校の場合は、潤沢に本がある中から自分の好きな、傷んでない本を持って帰れる。
また、４クラスあるところに４セット届けるということと、小規模校で数人しかいないところに１セット届けるところの学校間の開きが大きすぎることが問題であったように私は認識しました。そういうところで、図書館の方でなるべく小規模校と大規模校の格差が生まれないような、しかも１人１冊１年終了時に持って帰るが、方式が見直し必要ということになったので、そうではないプランを練り直していただいたと認識しました。
そのときの図書館の案は学級数分コンテナを用意するということではなく、セット分だけのコンテナでした。私の方から申しあげたのは４クラス、あるいは２セットいく学校でも３クラスあるのですね。そのときに３クラスある学校にコンテナが２つしかないと学校でまわすのに非常に困るのでコンテナだけでもクラス数配置してもらえませんかとお願いした経過がございます。以上をふまえて質問があればお願いします。

Ｄ委員：もうこれは決まったということで、気持ちだけ申しあげます。
当初市立６３校、私立５校と特別支援４校の７２クラスとなっていました。見直し案というのが、市立小学校のみとなっていますが、うちは子どもたちがみんな附属でそういうことが多くて。でも税金というのは一市民として同じように払っているわけで不公平感を感じてきました。ちょっとどうなのかなというのが今のところの個人的な意見です。実施されていく間に見直しなどがあれば良いのですが。税金を払っている市民の立場からしたらどうなのかという気持ちです。

委員長：同様の内容を協議した時に投げかけたのですが、それについていかがですか。

小西館長：この件について、例えば私が前やっていた仕事で修学旅行の補助金というものがありましたけれども、いろいろな補助金でそういう面はあります。
「税金をお支払いいただいているのに」というご意見と、財政側からしてみ

れば「私立の学校にはいろいろな市町村のお子さんが来ている中で、市民ではないところにも松本市民の税金が使われる」など。例えば他市町村のお子さんに松本市の事業による本を、という意見が出てくることも考えられます。あと、特別支援につきましては、 特別支援のお子さんが本を読むにあたって、普通の学校のお子さんと同じ本でいいのかというようなところも少し考えなければいけないとありましたので、まずは松本市立の学校から始めて行きたいと思います。

Ｄ委員：他の市町村からのお子さんというのは出てきましたが、私が知っている限り附属の場合はほとんどが松本市民です。だからそれは当てはまらないのではないかというふうにお聞きしておりました。あと特別支援に関しては、中身を変えるという検討が必要になると思います。けれども予算がとても減ったので、ここは少し押していただきたかったと思います。

委員長：私も同様の指摘をいたしましたけれども、まずはサードブック事業学級文庫を実現するために松本市立からスタートをして、その見直しをしていく中で、私立や特別支援学校については考えていきたいととあのときお伺いしたと思いますが、そういう認識で間違いないですか？

小西館長：今年はサードブックを何としてもスタートさせたいという面があります。少しネックになることがあるかと思いますので、松本市立から始め、さまざまな実態調査をしつつ、サードブックだけでなく他の支援や事業とも比べながらやっていきたいと思いますのでご理解をお願いします。

委員長：ありがとうございました。今の関連のことでもかまいませんが他にありますでしょうか。
ただいまの私立と特別支援学級については、サードブック事業が実現していくかどうか現状まだ分からないわけですけれども、実現化していく中でまた協議を重ねていきたいと私も思っております。現状のこの復活の実施計画をあげている段階で可否は分かりませんけれども、今後に向けて、今Ｄ委員さんおっしゃっていただいたことも含め、ご意見あれば承っておきたいと思います。いかがでしょうか。

Ｆ委員：通るのが分かるのはいつですか？

小西館長：今は日程が来ていないので決定は分かりません。

Ｆ委員：始まるとなったら選書の方は？

事務局：今選書の方がいつ始められてもいいように中央図書館の児童サービス委員会の方で何点か今知識、絵本、読み物の分類に分かれて３セット作るように選書しているところです。具体的に決まりましたら 作業部会を開かせていただく中でしっかり決めたいと思っております。昨年度行われたアンケート等を踏まえて本を選書している段階です。

委員長：ありがとうございました。それから私から一点。皆様の方にお話ししておきたいことは、見直し案の運用方法の一番下。ブックセットの持ち込みや本の状況の確認には子ども読書推進サポーターを活用し、というところです。要望書を上げる以前の段階で、また要望書提出の折りにも教育長と直にお話をしましたけれども、本をただ届けるだけではなくその本をいかに子どもたちに届けていくかが大事であって、読み聞かせの体験を一緒に届けるなど。そういったことも考えていただきたいと教育長から話がありました。
そこを踏まえてブックセットの持ち込み時の読み聞かせ、あるいはその場の本の状況確認等に、図書館並びに子ども読書推進サポーターも活用しながら、あげっぱなしにならないというところがむしろ当初案より良くなった点だと思っております。この点も大事にしながら実現できれば良いです。今回の結果を踏まえて、将来に向けて考えていきたいと考えております。
他にご意見ありますでしょうか。副委員長からも一言いただきたいと思います。

副委員長：この修正案で市の公平性ということを言われて、とても納得できるものだと思いました。小さな学校で新品の本を一冊もらうけど大きな学校はボロボロの本をもらう。少し無理があると思いながらも、１冊渡したいというところで押し切った感じも私としてはあって、公平性って大事なことだと思って納得がいきました。 予算を取っていただいてご苦労様です。

委員長：ありがとうございました。
学級文庫を否定するものではないというところに力をいただいたと思っているので、引き続きこれはどんな結果が出ようとも実現に向けて力を尽くしていきたいと思っております。またこの委員会は年度内に２回、昨年は２回目が３月でしたけれども、３月もどのような結果になったか報告があるかと思いますので、皆さん期待をしつつ良い報告を待ちたいなというのが今の気

持ちです。サードブックについては、現状のような形でよろしいでしょうか。
ありがとうございました。

【報告事項３　学都松本子ども読書活動推進事業の今後の進め方について】
事務局：説明

委員長：ありがとうございました。それぞれ新規も含めて事業が並んでおりますけれども、これにつきまして今の変更点だけではなく質問等ございましたらいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

（意見なし）

委員長：今後ご覧になっていただいている大きなものですと、今おっしゃっていただいたセカンドブックの調整を来年度予定しています。
多くの意見を皆さんでだけでなく、保育現場の皆さんだけでも多くのご意見を頂戴したうえで、アンケートも実施をされてセカンドブックの調整見直しがされるといいなと期待しております。
今年令和４年度ですけれども、現在の第二次子ども読書活動推進計画が令和５年度までの計画となっております。従って、今年度後半から来年度にかけては、令和６年度からの第三次子ども読書活動推進計画に向けての動きも行っていく必要がありますので、そのときには皆様方のご意見等を頂戴することになると思いますので、その分認識しておいていただければありがたく思います。
それでは報告事項３につきましては、よろしいでしょうか。

【協議事項１　子ども読書推進サポーターの承認について】
事務局：説明

委員長：ありがとうございました。承認の前にご確認をしておきます。
今お話しいただいたとおりですが、子ども読書推進サポーターは有償にて図書館の方に準ずる活動を行うというのが子ども読書推進サポーターです。
現在ブックスタート事業に図書館の職員が出向いて１０ヶ月検診時、赤ちゃんに１冊本をプレゼントする際、図書館の職員１人と子ども読書推進サポーターの方が１人、２名の体制で各保健センター健診会場に出向いています。
そのサポーターさんには時給１０００円と交通費が出ております。

これにつきまして現在何名いらっしゃいますか 。

事務局：現在の登録者は８名となっております。今回２名の方を承認させていただきますと１０名となります。

委員長：現在８名でそういったサポートをしている状況ですが、規定を満たしたこの２名の方につきまして承認をということでございます。承認いただけるようであれば拍手をお願いできますでしょうか。

（全員拍手）

委員長：ありがとうございました。それでは承認されましたということで、本年度後半よりブックスタート事業とサポーターとしての活動に２名の方を加えていただくということになります。どうぞよろしくお願いします。
では協議事項にボランティア養成講座、スキルアップ講座の開催について事務局よりお願いします。

【協議事項２　ボランティア養成講座・スキルアップ講座の開催について】
事務局：説明

委員長：ありがとうございました。スキルアップ講座に関しましては、Ｄ委員さん、Ｆ委員さん同時に１月には先ほど報告があり、皆様にも承認いただきました松本広域地区外の、上田市からも講師をお招きするような形で計画がされております。ではボランティア養成講座、スキルアップ講座の開催につきまして何かご質問ご意見等ありましたらお願いします。

副委員長：ボランティア養成講座で、昨年は図書館の司書の方と一緒に講座を行っていたのですが、今年度はいかがですか？

委員長：いろんな形で思考を繰り返しまして、昨年度も各講座内で図書館の職員さんにもご活躍をいただきました。今年度も毎回の講座の中で図書館の職員さんにご一緒に説明いただいたり、実演していただいたり一緒にやるというような形をとっております。
昨年度はボランティア養成講座中に別の講師の方、伊藤深雪さんにもお願いしましたけれども、協議の結果ボランティア養成講座は１名でやった方が受講者の方たちにとってもよろしいということで、伊藤深雪さんにはスキルア

ップ講座の方で１講座持ってもらうような形の計画となりました。
よろしいでしょうか。他にご意見ご質問等ありましたらお願いします

（意見なし）

委員長：特にスキルアップ講座も含めまして、残った時間で皆様方のご意見を改めて頂戴したいと思っております。協議事項につきまして、以上で終わりましたがその他事務局からありますでしょうか。

事務局：特にありません。

委員長：ありがとうございました。
皆様方のご協力で、まだ時間がございます。ついては今の子ども読書活動、スキルアップ講座、ボランティア養成講座も含めて、先ほどの今後の子ども読書活動の進め方にも申しあげましたけれども、いよいよ二次計画もあと１年と少しというところになりました。三次に向けてもこの二次の間のことも検証する必要がございますし、三次に向けて現状足りないところをどう補っていくかというところも重要なことになってくるかと思います。今日この後の時間はそういったご意見を忌憚なくいただく時間にあてたいと思いますが、事務局からはいかがでしょうか。

事務局：特にありません。お願いします。

委員長：三次に向けてのご意見だけではなく、現状思っていることも含めてお願いします。まずは私としても聞いておきたい。図書館としてもそうだと思いますが、ボランティア養成講座やスキルアップ講座について今後どのようにしていくかというところについてご意見を賜りたいと思います。
例えばこういう内容がいい、こういう講師の方を呼んではどうか、そもそもこういうボランティア養成講座やスキルアップ講座の２段階の講座にてボランティアを養成し有償活動をするサポーターをつくるという仕組みについても 第二次で３年半やってきたことについてご意見等あればいただきたいなと思います。いかがでしょうか 。

Ｄ委員：読み聞かせボランティア講座なのですが、豊嶋さんのこのプログラムと指導の下で多くのボランティアさんが育ってきていると思います。豊嶋さんがいろんなご苦労をなさって、図書館と協議なさってこういう形によってきたと

いうところも重々分かっているのですが、豊嶋さんが全部を持たれる意味というのが少し私には分からないということと、豊嶋さんが抜けなければならないという事情になったときに後継を育てなければならないと思います。一人で全部されているという今の状況がどうなのかと常々思っていたのですけれども、そのところを明るくしていただけたらと思います。

委員長：これは私が決めたのではなく図書館と協議を進める中でこのような形になってきたので、私の方からなかなか答えづらいのですけれども、養成に関わらせていただいているものとして感じていることは、現状６回関わらせていただく中で顔の見える関係ができて、現在コロナ禍ということもありましてその後活動していく皆さん一人一人に声をかけて、今ボランティア養成講座が終わっても中央図書館での活動以外なかなか活動できる場がない、１人当たり多くて年２、３回の状況です。

事務局：コロナ禍でおはなし会をお休みする分館もありますので、なかなか分館でボランティアさんが活動できないというのが現状です。

委員長：そういう方たちのモチベーションを保つため、今年度は初めてボランティア更新講習を行いました。けれども残念ながら「活動する場がないのでもう気持ちが萎えてしまった。私はここで結構です」という方も正直出ています。そういった方たちにいかに活躍していただくか。「せっかくボランティア養成講座を受講してスキルアップ講座も受けても、実際に活動する場はないです。もう気持ちが駄目になってしまいました」と直接伺った方もいらっしゃいます。
このコロナの状況を理由にしてはいけませんけれども、せっかく子どもたちのために本を読んであげたいと思った人たちの気持ちがつながっていくようなことを、気持ちが元気になるような、また楽しくやりたいと思うような空気を作っていかなければならないと思っております。
一人体制がいいのかどうなのかというのは私だけでは判断しかねますので、私として今持たせていただいてそのように思っています。あるいはコロナが終息した後の話になるかと思いますが、以前Ｅ委員さんが児童センターでボランティアを受け入れたいとおっしゃっていただきましたけれども、そういったボランティアさんに活躍していただく場を広げるというのも今後考えていくべきかと思っております。いかがですか。

Ｅ委員：児童センターとして何かできないかとそういった声を書かせていただきまし

た。やはり現状コロナ禍というのは、毎日本当に私自身も日々間近になっております。なので本当に行事一つ一つ考えながらやらないと皆さんに迷惑かけてしまうし、大事な子どもたちを預かっていますのですごく慎重になっています。児童センターは小学生だけではなく午前中つどいのひろばといって未就園児さんも来ています。実際二子児童センターでも図書館にお願いをしてつどいの広場に図書館の方が来ていただいて読んでもらうという機会を設けるという計画を立てました。毎日ひろばの支援員の先生たち一冊ずつ読んでいるのですが、それとは少し違った形で、外の方が入ってくるのもとても大事だと思います。なので、児童センターは定期的ではなくても単発で受けることはできると思っております。せっかく講座を受けても出ていく場所がない、やる気が失せてしまうというのはとても悲しいことだと聞いていて思いましたので、ぜひそういった場を設けることを考えるのも大事だと思います。

委員長：ありがとうございました。他にございますか？

副委員長：ブックスタート事業は実際に活動されているのでしょうか。

事務局：ブックスタート事業は、読書サポーターさんの方、図書館職員、書店員の3名で配布しています。
コロナ前はおはなし会ほどではありませんが、本の内容を紹介されていたのですが、コロナになってからはお渡しするだけなのが現状です。悩まれているお母さんがいらっしゃったら、サポーターさんから本の内容をご紹介していただいているのですけれども、本の読み聞かせというところまではできていません。

委員長：ありがとうございました。今おっしゃっていただいた通りで、サポーターの方にも活躍していただいております。途中中止になった時期もありますよね。

事務局：今年度サポーターさんは４月から参加していますが、１月から３月まで健診自体がなくて、渡せなかった方には通知を差しあげて図書館に取りに来ていただき本を差しあげるということでご通知しております。
現状１８０名ぐらい受け取りになっていますが、健診の人数としては少ないので、こちらとしては取りに来てくださいと投げかけたいのですけれども、該当の方だけにお知らせするというのが難しいです。やるとすれば健康づくり課に協力を仰がないといけなく、健康づくり課はコロナなどの対応で忙し

いので、取りに来られない方々に再通知というのはなかなか難しいというのが悩みの種でございます。

委員長：ありがとうございます。現状そういうことで未配布の方がいらっしゃる。それも課題として残っているということでした。他にありますか。

Ｆ委員：豊嶋さんが答えづらいところなんだろうなと思っているのですが、読み聞かせボランティア養成講座はやはり豊嶋さんだけに何年も図書館でやっていただいていますし、豊嶋さんにやっていただければとても楽だと思うのです。しかし、読み聞かせをする人にはいろんな人がいるし、いろんなやり方もあるし、こういうやり方はどうなのだろうかと図書館の方々にも一緒に悩んでもらってこういう講座を作り上げていきたい。ショック療法ではないですけども、ちょっと違う人たちを入れて、図書館も豊島さんにお願いするだけではなく、もう少し細かく打ち合わせをしたり介入できるような体制にしていただかないといけないのではないかと思います。
私去年の委員会の報告を読んでいたのですけれども、サードブックや次の第三次子ども読書活動推進計画にしてもそうなのですが、図書館の方たちが主にやっていただいて私サポートする立場なのですけれども、この図書館の体制というのがどうしても正規の人たちは他の職場にうつっていってしまいます。
私がこの会に入らせていただいた間だけでも館長も補佐も代わりどんどん体制が変わっていてしまう。今の人事のあり方では仕方のないことかもしれませんが、これだけの大きな事業を作るということは、私たちもできるだけのサポートをしますけれども、図書館できちんと芯をもってこの先を見越してやる人たちがいないと結局は予算折衝をするにも色々な活動の中心をどうするかというときにもそこがネックになると思います。
本当は正規の職員がうつらないで事業が終わるまではずっとやっていくのが理想です。そうではない場合、会計年度任用職員でも正規の職員でも絶対異動しない人たちを作っていただかないと何回やっても結局また一から伝えていかなければならない。そんなにこの事業は簡単なことではないと思います。子ども達の成長に関わり、とても大事なことなので、その芯のところを深く掘っていただかないと進んでいかない。この会でいつもそういうもどかしさを感じています。
これが１回目であと２月の会議で終わりですよね。私は他の委員会をいくつも持たせていただいていますが、そういう最初と最後だけ会議をするところが多いです。それだと本当に進んでいかないので図書館の方で考えていただ

きたい。
途中で作業部会というもの作っていただいたのですごくいいなと思いました。それにしてもこのボランティア養成講座の作り方にしても図書館の中で本当に芯になる方たちに、この人に聞けば前からのことがどうだったか分かるという人を作ってもらわないと私たち自身がどこに聞くのかということになってしまう。ここに参加している委員の皆さんは助けてと言われれば何でもやるというつもりで参加してらっしゃるのですけれども、そこの部分をぜひ今一度深く掘っていただいて膝突き合わせてやれるような関係をぜひ館長中心に作っていただければありがたいなと思います。

委員長：テーブルを一周しましょう。どんなご意見でも結構です。

Ｇ委員：前にも少し申しあげましたが、図書館の中のことにしても私自身も公務員でしたので異動があることも存じておりますし、それが１職員でどうにかなることではないということも重々承知しておりますので、今の豊嶋さんの件に限らず、次の代を作っていくことやボランティア養成講座の講師のあり方も含めてもう少し先を見た活動も視野に入れる必要があるのかなと思います。ボランティアをされている年齢層がどういう形なのか分かりませんが、今の働きながら子育てをしているお母さんたちが読み聞かせをするような家庭環境をどうやったら作っていけるか。私たち精一杯やっていると思ってきていますけれども、もう少し視野を広げたりアプローチの仕方を考えたりしていく必要もあるのかなと思いました。
７ページの新規で入った家庭読書の日というのも素敵な取り組みだなと私は思いますが、 実際にはこれが良い事だと思いながらもできないというお母さんもたくさんいると思います。読み聞かせをすると、親子の絆が育まれたり子どもにとっても良いのだろうと思いますけれども、実際には仕事や家事に追われなかなかその時間が取れない。良いとはわかっているけど本心では読み聞かせは苦痛でしょうがないと思う若いママさんも私たちが想像している以上に多いと聞いています。
実際私の仕事仲間たちも学校司書だったのですけれども、読み聞かせの良さは重々知っている仲間達ですがやはり自分が思うように子育てで読み聞かせはしてくれていない。その結果どうなるかというと自分責めが始まります。読み聞かせすらできていない子育てをしている自分というのに罪悪感を持ったりすごく苦痛に感じたり、自分の育児の自信を失ったりという方がいらっしゃるということを私は知りませんでした。私は読み聞かせを苦痛と思ったことがないので。読み聞かせは良いですよと言えば言うほど若いお母さん

を追い詰めていた自分たちのアプローチの仕方も何とか考えていく必要があるのかなと考えております。
なので、「ラジオで 8 月 29 日は焼肉の日だと言っていたから今日は焼き肉にしようか」と思うような気持ちで、「今日は家読の日だから読書しようか」というふうにママたちが思えるようにできるかというと難しい。
家読は良いことだと分かっているしやりたいのは山々だけど、帰ってきたらお風呂に入れてご飯を作って洗濯して早く寝かしつけてそこで自分がウトウトしながらしんどいけど読み聞かせしているなんていう気持ち、もしくはそれすらもできないというふうにならないように。
読み聞かせに限らず、三食きちんと緑赤黄色の食事をちゃんと作らなければいけないなど、いろいろなことを言われるのは私たちが思っている以上にママたちが苦痛に感じているということを知っておかないといけないと思います。
今まで私もいろんな読み聞かせ、図書館関係の団体、市民活動の団体とかに所属してきましたけれども、20 年活動を続ける中で担い手がうまく繋がらずに閉会した会がいくつもあります。これは図書館に限ったことではありませんがそれも含めてボランティアを養成していくのであれば若いボランティアさんも育てていく。
家読はとても良いことだと思いますので、どのようにアプローチしたらママたちが取り組んでみようというふうに思えるか、あるいはそれなら時間作ってでもやってみようと思えるような発想を私たち自身がまず持っていくことが大事だと思っております。
養成講座は素晴らしい取り組みだと思うので、これを今後も良い形で維持し、次に引き継いでいけるように今のうちからちょっとずつ準備を進めて、その一方でたくさんいらっしゃるベテラン世代の方も、活動エネルギーがある方たちも活かせる場というのも合わせて作っていきながら、逆にそれに頼りすぎず次世代も作っていく両輪でやっていけたら。これから運営側の活動に関わってもらうママさんたち、意識を高めてもらうママさんたちにもアプローチしていけるといいなと思います。

H委員：私事の話をして終わりにしたいと思います。私は田川地区公民館長が主体となっている田川小学校の読み聞かせボランティアという仲間に入れさせてもらっております。今度田川小学校に行かせてもらうのですが、あるとき私の妻が「読み聞かせボランティアさんが子どもたちに読み聞かせているのだけれども、聞く子どもたちはボランティアで聞いてやっているんですよ」と。読み聞かせをする立場であれば、やはり自分自身を高めていく必要があるの

ではないかと。かといってそれをあまり求めると読み聞かせボランティアさんたちがどんどん減ってきてしまうのでもどかしいなと感じます。
私の田川小学校のボランティアは当番制で来ているのですが、読み聞かせで各教室に行き、終わった後会議室にボランティアが集まります。そこで今日何やったかというような話をしながらお互いボランティア同士で読み聞かせをして、「そこいいね」「その話素敵だね」という感想を話し合います。
私今年城北でお世話になって、開智小学校でもそういったボランティアの読み聞かせがあるようですけれども、今コロナ禍で動いていない状況があるという話を聞いております。だからまずはそういうボランティアさん同士の仲間でスキルアップしながらどうすれば子どもさん達に読み聞かせをする想いが伝わるのかなと思いながら参加させてもらっています。
それとは全く逆のことで、先日福祉ひろばの関係事業で館長何かやってと言われたものですから、福祉ひろばに来ているお年を召された方たちに本の読み聞かせをしました。
図書館から大型絵本を借りて読み聞かせをしましたら、おじいちゃんおばあちゃん喜んでおりました。
その後、児童センターさんのブラックパネルシアターの本体を使ってブラックパネルシアターをやらせてもらいました。そのとき「初めて見ました」、「テレビばかり見ているのではなくて、こんな素敵な読み聞かせが今子どもたちに行われているし、そういうものがあるんだということを教えてもらった」と感謝されましたので、委員会では何をしたらいいのかなと思いながらもいるところであります。
この会ではふさわしくない話でしたけれども、そのように感じました。

Ｃ委員：サードブックですけれどもご尽力されて再度提出されたと思います。なかなか予算の獲得というのは難しいものだと思います。
感想としては、一人一冊プレゼントで良い本と悪い本で不公平感あればいっそのことファーストブックみたいに全員にあげるのだと押し通せば良いのではと思っております。必要ならもっと予算増やしてと要求すれば良かったのではないですか。
いずれにしても、予算の獲得は難しいので色々ご尽力されていると思います。
先程お話しいただいたボランティア講座で活躍される場所がないというお話ありましたが、Ｈ委員のされている活動場所や小学校、保育園など他にも活動できる場所があるかと思いますので、そのご紹介などできれば。
いずれにせよ皆さんご尽力されていることに感謝申しあげます。

Ｂ委員：他の方の意見をいただいて、いいなと思うところありました。
夏休みで私は学習支援で児童センターに行かせていただくのですが、勉強が終わってすぐ本を読みに行く子どもと、一切本には取りつかずゲーム、ブロック、動画の視聴などに行ってしまう子どもと確実に分かれるんです。本に行く子は毎日必ず本から始まり、そうでない子は本を触りもしないのです。やはり子どもによって、環境等違いがあるんだと思います。
本当にみんな集まって７０人の所で読み聞かせするのはコロナ禍で難しいと思うのですが、例えば今日１年生だけと人数を限って工夫したり、あとは外部から来て読んでいただくのもまた違う新鮮味、セミプロの上手さというところがありますので、そういうのでぜひ頑張っていただきたいなと。
あと児童センターなど受け入れ側は、チャンスがあれば受け入れてくださると思います。
浅間のお年寄りのいろんなクラブがあって、合奏をやりたいというご意見があるので毎月１、２回行っているのですが、とてもパワーがすごいんです。弦楽器や木琴が中心で、やっている曲はクラシックなどさまざまで、自分でキーボードを何万円も出して買ってきてバイクに積んでくるおじいちゃんがいるのですが、とにかく自主練習に毎日来ている、そういう方達のエネルギーを無駄にしてはいけないなと思っております。
逆におじいちゃんたちが隣の児童センターの子どもたちに読んであげるという火種を読書ボランティアの方達がポンと押してくださることも可能なのかなと考えております。コロナで縮小していますけれども、やりたいという気持ちではむしろ以前よりも大きい気がします。
結局呼ばれないのでだんだんやる気がというのは分かるのですが、ここはぜひ委員長や図書館の職員さん中心に踏ん張っていただいて、ちょっとずつでも活動を続けていただければ大変ありがたいなと思います。
お母さんが読み聞かせは苦痛だというのはわかります。私も苦痛でした。しかしそういうことができないお母さん達に限ってそういうチャンスにも巡り合っていないので広げていく。読んでいるお母さんは平気で読んでいらっしゃるので、そうでないところを広げていく何か策があれば。来てほしい親御さんほど来ないですよね。その辺知恵を出し合っていけると大変良い活動になるのではないかと期待しております。
あと２、３年ありますけれどもよろしくお願いいたします。

副委員長：ここに二次計画があるのですけれども、繋がっていくんですね。一次計画のときは本当にビックリしました。正直机上の空論だと思っていました。こ

んなにいっぱいできないでしょうと。でも二次計画が終わる頃コロナで思い通りにならなかったことはありますが、結構進んできていますよね。本当に図書館の方のご苦労はあってこそだと思うのですが、三次にあげるのでしたら反省をあげれば良いですよね。
綺麗事にしないで、どこまでできているか、できなかったか、例えば子ども読書推進サポーターではどんな活動ができたか正直に書いて、そこからどう繋げていくかということをやっていけばいいなと思います。
先生方がおっしゃるように本って良いものだし、お年寄りの方が聞いても絵本の読み聞かせは感動するんですよね。
解放感があるとうたっているわけではないのですが、D委員の語りを聞いたときに、その場に本もないのに映像が見えてくるんですよ。これって凄い世界だなと思って大人だけど本当に感動しました。
ああいった感動がいろんな人に繋がればいいし、お母さんも一度誰かのすごく上手い読み聞かせを聞いて、「何これすごい！」と思えば変わってくると思うんです。だからそういった機会を応援団の人たちがいろんな形で広げていければ良いなと、本の良さの宣伝に力を入れてほしいなと。
本を読んでくれないお母さんは、自分が今まで触れてきていないからだと思いますので、良さに触れる機会を何らかの形で考えてほしい。推進委員会も考えていると思いますが、まず図書館の職員たちが動いてほしいと思います。例えば塩尻図書館におられる名物司書と言われるような人たちを育てていってほしい。図書館も随分開かれてきて、変わってきているのでこのまま進んでほしいなと思います。

委員長：ありがとうございます。皆様から本当に良いご意見をたくさんいただきましたので改めてきちんとこれらを整理して、しっかり活かしていきたいなと思います。
二次計画現状、副委員長からもできたこと、できてないことをまず検証が必要でしょうし、今足りないことを考えていくことも必要でしょうけど、皆さんからいただいたボランティア養成のあり方、ボランティアの他機関との連携によるボランティアの活用、コロナだからできないではなくて受け入れ側の開拓や準備は今でも十分できるし、今できなくても将来に向けて受け入れる側の他機関との連携の準備はできるなと思いました。
また、お母さんお父さん若い世代へのアプローチ、本との出会いや喜びにめぐり合う機会という素敵な言葉をいただきました。そういったことも創造していきたいと思いますし、ボランティアの人たちが活躍の場がないからといってこれに意気消沈するのではなく、常日頃いかに、元気が出てまたやりた

いと思っていただける場を作ることが大事だと、ここ２、３年すごく思っております。
スキルアップも必要だけれど、H委員がおっしゃった思いの共有や、交流する場も大事だと今日思いました。また子どもだけに限らず、多世代に向けたアプローチが次の種になり、そして異世代交流もまた読み聞かせを通して考えていけるのかなと皆さんのご意見を聞いて改めて思いました。
また最後に、他の委員さんもおっしゃってくださった、子ども読書活動に関わる図書館としての体制とか、特に非正規の会計年度任用職員さんも含む子ども読書に関わる軸になる体制づくりがとても大事になってくると思いました。次にぜひ図書館も活かしていただきたいと思いますし、私自身も肝に銘じたいと思いました。
とても良い意見をたくさんいただいたので、今日の意見を踏まえて皆さんから頂いたものを形にしていけたらと思います。

閉会

以上